

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年 1月 24日

東京大学での所属学部・研究科等:	学際情報学府	学年(プログラム開始時):	修士2
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	メルボルン大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
()1.研究職 ()2.専門職(医師・法曹・会計士等) ()3.公務員 (○)4.非営利団体 (○)5.民間企業(業界:) ()6.起業 ()7.その他()			

派遣先大学の概要

メルボルン大学はオーストラリアを代表する総合大学であり、特に国際開発分野では実務者育成に重点を置き留学生を多く受け入れている。

留学した動機

大学院の研究において情報通信技術の国際開発に対する応用を扱うにあたり、実践的な国際開発論に基づく考え方を理解する必要があると判断したため。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015年	修士1	年生の	A2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年	2月~	2016年	11月	
	修士1	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2017年	修士3	年生の	S1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2017年	修士3	年生の	4月頃に	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位				単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位				0単位
	留学後の取得(予定)単位				単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2015年	4月入学	2018年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	3年		ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

当初博士課程への進学か修士課程修了後の就職の両面を検討しており、修士2年時の留学であればどちらでも対応できると判断したため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

科目登録の手続きがやや複雑なので留意が必要。特に前提科目が設定されている科目については事前に担当教員との折衝が必要。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

学生ビザ。大学側から案内あり。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

ビザに健康診断が必要との情報もあるがなかった。予防接種等も特別不要。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学の留学保険とクレジットカードの保険。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

学際情報学府の論文提出の準備として設定されている研究構想発表会・中間発表等に関しては欠席手続きが必要。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

論文執筆・リーディングプログラム等で英語を活用する機会が多かったため、特に留学に照準を合わせた準備はしなかった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

書類提出等の関係で印鑑は持参した方がよい。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位認定の申請	授業科目名	単位認定の申請
Development in 21st Century		Microfinance and Development	
Development Special Topic B			
Intercultural Communication			
Development Policy in Africa			
Monitoring and Evaluation in Development Project			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

<p>基本的に1週間あたり1時間程度のレクチャーと2時間程度のチュートリアル(ディスカッション等)で一授業が構成される。他、集中講義形式のものもある。</p>
<p>③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など</p>
<p>週当たり3から4時間の一授業を学期当たりの3から4程度の履修するのが標準的。授業以外にリーディング等は一定程度課される。</p>
<p>④学習・研究面でのアドバイス</p>
<p>大学院生で論文提出等がある場合、集中講義を活用するとよい。</p>
<p>⑤語学面での苦勞・アドバイス等</p>
<p>特になし</p>
<p>生活について</p>
<p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)</p>
<p>前半は民間のルームシェア、後半は寮に滞在。民間は手続き上の面倒が多かったため寮を推奨する。</p>
<p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</p>
<p>1日の寒暖の差が激しいが比較的住みやすい。市中心部はトラムが無料なので活用できる。食事は大型スーパーや市場で材料を買って自炊が主(外食は高い)。クレジットカード通用率が極めて高いため専らカード払いを利用し現金はあまり持たなかった。</p>
<p>③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)</p>
<p>治安は良い。医療機関も充実しており探せば日本語通訳付きの病院もある。</p>
<p>④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)</p>
<p>・毎月の生活費とその内訳</p>
<p>18万程度(家賃10万、食費4万、教科書等1万、通信費等1万、雑費1万、交通費1万程度)</p>
<p>・留学に要した費用総額とその内訳</p>
<p>180万程度(18万×9カ月+航空賃18万程度)</p>
<p>⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)</p>

日本学生支援機構、リーディング大学院奨励金
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
研究活動に関連する課外活動に参加した。休暇は旅行等。
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
Stop1という窓口があり学生の各種相談に乗ってくれる。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館は夜中まで開館しておりパソコンも利用可能。食堂は一般のファーストフード店等が固まって入っている建物がある。利用しなかったがプール等のスポーツ施設もある。
留学と就職活動について
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
特になし
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
特になし
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください
()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:)
()4.非営利団体(団体名又は分野:) ()5.民間企業(企業名又は業界:)
留学を振り返って
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
当初の目的通り、研究に必要な国際開発的見地からの分析を学ぶことができた。
②留学後の予定

修士課程修了のち就職。実務経験を得たうえで博士学位取得を目指す。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

目的がはっきりしていればよい経験になると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年 3月 3日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	メルボルン大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
()1.研究職 ()2.専門職(医師・法曹・会計士等) ()3.公務員 ()4.非営利団体 (○)5.民間企業(業界:戦略コンサルティング) ()6.起業 ()7.その他()			

派遣先大学の概要

メルボルン大学はオーストラリアにおいてナンバーワンの総合大学であり(世界大学学術ランキング2014より)、学術的に世界で非常に高い評価を受けております。メルボルン大学は近年目覚ましい成長を見せており、世界大学学術ランキングでは最近10年間で50位、5年間で30位と大きく上昇しています。特に経済学部や医学部が有名です。

留学した動機

最大の動機は英語圏で生活をしたいという気持ち。元々英語が得意であると自負していたのですが、大学2年生の春に初めて英語圏を訪れた際に自分の英語力に限界を感じ、また日本で英語力を向上することにはどうしても限りがあると思ったため、海外で生活してグローバルに活躍するために必要な英語力を習得したかった。自分より成績の悪い友達でも留学できていたのを見て、自分にも可能性を感じたから応募した。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部4	年生の	夏	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2015年	7月~	2016年	7月	
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2016年	学部4	年生の	冬	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016年	学部4	年生の	7月頃に	行った
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位				75単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位				0単位
	留学後の取得(予定)単位				21単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2012年	4月入学	2018年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	6年		0ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

特に意識していなかった。留学しようと思ったのが大学三年の秋前だったため、そのタイミングで応募すると必然的に4年の夏学期終了以降に留学開始となる。当初は院に行こうと思っていたため就活等の時期は全く考慮していなかった。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

やるべきことは東大のホームページから入手できる書類に全て記載してあるので、特段難しいことはなかった。学内選考が終わった後向こうの大学に申請する際にも指示された手順に従えばよいので全く問題はない。ただ、申請時点で履修を組む必要があったため、少し苦労した。当然ではあるが向こうのホームページは全て英語であるので、向こうの履修システムや科目の説明等の理解には想像以上に時間がかかると思った方がよい。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

僕自身国籍が中国であるため大半の学生の参考にはならないと思うが、中国人であると日本人の何倍も苦労する。例えば日本人であれば申請全てがオンラインで進むようで非常に楽だが、中国人の場合は書類を手書きで入力したのち国際郵便で韓国にある大使館に送付する必要があった。また、完全に自分が悪いが申請をギリギリでした結果留学出発前日までビザがおりずバタバタしまくったので、必ず余裕を持って申請するように。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

予防接種等はしなかった。ビザの要件に指定医療機関での健康診断があったため、ビザ申請後に行った。2万円程度かかったので要注意。常備薬等は親に持たされたが、間違いなく日本から持って行った方が質も高いし安心。医療用語を現地で伝えるのは非常に難易度が高いので、現地で病気等はなるべくしたくない。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

保険は東大に指示されるとおりに行った。またオーストラリア政府が全留学ビザに課す現地の保険があり、これが650ドル程度とびっくりするほど高かった。東大のと合わせて保険だけで15万もかかった。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

基本的に必要単位がほぼ取り終えていて単位交換等は元々するつもりがなかったので、特に相談等はしなかった。工学部の単位交換はルールがかなり厳しいようだったので諦めた面もある。そもそも学科で履修している内容とは違う範囲の学習をしたかったため、交換する理由が特になかった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

出発前の語学点数: TOEFL 91。元々継続して英語学習していたが、現地に着いてやはり苦労した。特にオーストラリアのアクセントに全く耐性のない状況で行ったので、聞き取りが非常に苦労した。自分の留学先に合わせた英語に聞き慣れていた方がよいと思う(綺麗なアメリカアクセントしか聞いていないと間違いなく苦労する)。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

箸や醤油用の小皿や小鉢等、日本にしかない食器や調味料。あと鼻セレブとか。現地に売っていないことが非常に多い。パスタ用のソースやレトルトの食品は持っていけるだけ持っていくべき。間違いなく食のの違いで最も苦しむ。あとはパーティ用のスーツやネクタイは出来れば持っていきたい。クレジットカードを複数枚作っておくこと(ライフカードだと5%キャッシュバックされるのでコストと、レートを考えるとVISAよりMaster Cardの方が良いらしい)。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位認定の申請	授業科目名	単位認定の申請
Foundations of Computing		Business Finance	
Foundations of Algorithms		Foundations of Information Systems	
Principles of Marketing		Business Decision Analysis	
Foundations of Informatics			
Finance 1			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

<p>僕自身は日本で学習していなかった内容を学びたかったので、金融系やマーケティング等経済学部の授業を重点的に履修していた。講義は全て録画・録音されておりLMS上でダウンロードできる。授業に出ても英語等でわからないことが多かったので、家で録画を見て復習していた。ちなみに試験会場が世界遺産で感動した。</p>
<p>③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など</p> <p>一学期あたり4科目まで履修でき、基本的には一科目につき1週間で講義が1～2コマで2～3時間、チュートリアルやワークショップが1～2時間ある。1科目の単位数は12.50 pointsである。ワークショップで毎週課題が課され、アサインメントもセメスターに2、3回あるので学習量は非常に多い。これと別に英語の勉強もしなければいけないのでかなりストレスフルだった。</p>
<p>④学習・研究面でのアドバイス</p> <p>オーストラリアの学生は他の英語圏と同じように、高校まではそれほど勉強せず大学に入ってから真面目に勉強するため大変勤勉である。実際図書館はいつ行っても混んでいる。英語等で引け目を感じてしまうかもしれないが、やはり地頭は東大生の方が遥かに良いので積極的に授業に参加して発言するといい。自信を持つこと。</p>
<p>⑤語学面での苦労・アドバイス等</p> <p>現地の発音になれることが一番のキーポイント。また留学生が大変多いので、様々なアクセントに慣れるよう沢山のひと積極的に交流すると良い。ただし、自分が知らなかった単語や表現をしっかりと書き留めないと次聞いた時に忘れてしまうため英語に敏感でいるべき。絶えず英語学習をしていないと一向に英語力は向上しない。僕個人がやっていた英語学習は英語のコメディを英語字幕で見ることや、交流イベントに毎週参加してたくさん話すこと。</p>
<p>生活について</p>
<p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)</p> <p>学生用のアパートに住んでいた。寮は異常に高かったため断念したが、他の学生はシェアハウスに住む等していた。CBDの中心にあったため月のレントはAUD950だが、これでもかなり安い方。家賃が異常に高い街だった。大学のHousingの掲示板に載っていたところを自分で見つけた。ただ家探しは本当にストレスフルな作業なので事前に決めてから渡航するといいい(僕は最初は家を決めずホステルに泊まりながら家を探した)。</p>
<p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</p> <p>メルボルンは雑エコノミストが選ぶ「世界で最も住みやすい街ランキング」で6年連続で一位の街で、実際生活はしやすかった。沢山のひと種がいるしアジアンレストランも多いので、日本人は住みやすいだろう。交通機関は「トラム」と呼ばれる路面電車が市中を走っており、郊外に行く際にバスや電車を用いる。治安も良く、非常にのんびりした雰囲気。お金は基本的にライフカードというクレジットで支払い、家賃は振り込みだったので親に送金してもらった。</p>
<p>③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)</p> <p>治安が良かったため特に何も気にしていなかった。</p>
<p>④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)</p>
<p>・毎月の生活費とその内訳</p> <p>約14万(家賃8万、食費5万、その他交際費1万)</p>
<p>・留学に要した費用総額とその内訳</p> <p>約200万(航空券15万、保険15万、健康診断2万、その他雑貨3万、旅行15万)</p>
<p>⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)</p>

東大の留学生用奨学金
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
大学のフットサルリーグに友達と参加していた。Pick upでフットサルした時に出来た友達に誘われたもの。週二回。日本人コミュニティでたまに集まりがあった。あとはワインソサエティに所属していた(ワインを飲むサークルの様なもの)。学期中の休みはオーストラリア旅行をしたり、家でまったりしていた。
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
留学生用のイベントがあったりクラブがあったりしたが、交換留学生は英語圏からが多いため非英語圏の学生のための語学サポート等は特にはない。生活・精神面については新入生向けにメンタリングシステムがあり充実している。学習サポートもチューターが親身になって教えてくれるので問題はない。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
学校の設備はUnion Houseという建物があり、クラブの部室やフードコートが入っている。建物前の広場では毎週フリーBBQが行われていたり、どこかしのクラブがイベントをやっていて非常に賑やか。グラウンドもあり、ジムもあるが利用費用は一学期で230ドル程度。図書館はこれでもかというくらい沢山あり、深夜1時まで開いている。試験期間中は24時間開放も行われる。
留学と就職活動について
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
留学自体が話の種になるし、身についた英語力(TOEFL 102, TOEIC 985)は採用する側にとっては大変魅力的な要素であると感じる。海外にいると自然と振る舞い方が海外スタイルになるが、就職活動においては上手いこと他の学生との差別化につながったと感じる。ただ海外にいるときに選考があると参加できなかったりするので、タイミングの面でデメリットを受ける可能性は非常に高いので要注意。
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
留学そのものが大きな影響を与えたということはないが、日本にいるときより圧倒的に時間ができるため自分について考える時間ができる。この時間に自分の価値観が形成されていくのを感じたし、非常に有意義な機会だった。元々海外で働こうかと思っていたが、いかに日本が好きか改めて実感したため日本で働こうと(というか日本以外ではもう住めないだろう)思った。
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
特にしていなかった。情報が少なすぎたので、友達に個別で聞いたり就活サイトをチェックするなど他の学生と特に変わらない。
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください
()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:) ()4.非営利団体(団体名又は分野:) (○)5.民間企業(企業名又は業界: 戦略コンサルティング) ()6.起業(分野:) ()7.その他()
留学を振り返って
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
留学の最大の意義は日本以外の世界を知ることにあると思う。日本はあまりに自己で完結できてきたため文化も画一的だったが、もうそんな時代はとうに終わっている。今できるだけ早く世界を知ることが大事である。世界というのは欧米諸国に限らない。沢山の人や文化と交流する中で自分や世界を見つめ直すの良い。英語力等が身についたこと以上に、自分という人間が形付いたことに最大の価値がある。
②留学後の予定

留学中に院進をやめて就職することを決意したので、もう一年学部で勉強して就職する。留学したおかげで外資系の企業に内定し就活が一瞬で終わったので、真面目に勉強及び研究する所存。1、2ヶ月程度の留学も出来たらしたい。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

絶対にすべきです。世界での日本人のプレゼンスは非常に限定的ですし、英語を喋れる日本人も少なすぎます。東大も徐々に留学しやすくなっているので積極的に機会を活かして欲しいです。自分の可能性や取れる選択肢を増やしてくれますし、人生を変えるきっかけになると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

バイリンガルニュース、バイリンガール、Hapa英会話、ListnMe

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年 06月 17日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	メルボルン大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界:IT企業)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

オーストラリア・ヴィクトリア州にある、160年以上の歴史を持つ同国屈指の名門校。同国を代表する大学連合である“Group of Eight”の1つであり、多くの大学ランキングから総合評価でオーストラリア1位に位置づけられる世界的に評価される大学です。特にファイナンス・会計学の分野ではQS世界大学ランキングで14位にランクインするなど経営学に強みを持っています。また、ローカルの学生だけでなく、中国系やマレーシア系などアジア人留学生も多く、国際色豊かな大学です。

留学した動機

第一の理由は英語力向上です。大学入学以降、様々な国際交流系の団体に所属したのですが、自らの英語力への自信の無さから外国の方とのコミュニケーションを満足に取れずにいました。そこで1年間英語に囲まれた生活を送り、自らの英語力への自信に繋げようと考えました。
二つ目の理由はファイナンス・会計を勉強したかったからです。東大では法学部に所属していますが、当時の将来の夢である、企業をサポートするような弁護士になる上で、財務系の知識は必要不可欠であると考え、1年間学部の勉強から離れじっくり時間を取って財務系分野の学習をしたいと考えました

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	学部3	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年	7月~	2017年	6月	
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2017年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2017年	学部4	年生の	6月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		32単位		
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位		10単位		
	留学後の取得(予定)単位		48単位		
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2019年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		0ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

経済的な理由で全学交換留学での派遣を希望していたため、学部3年以降からの留学しか選択肢がなく、1年卒業を遅らせ、帰国後、じっくりと就職活動を行えるよう考慮した結果、3年の夏から4年の夏(留年するため実質3年の夏)での留学に決めた。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

入学手続き自体は東大・メルボルン大学双方からの案内に従って進めていけばスムーズに終わると思います。ただ、取れる授業に関しては注意が必要です。私は東大では法学部生ですが、メルボルン大学では主にFaculty of Business and Economicsの授業を履修していました。同学部の上級学年用の授業の殆どは、Prerequisiteという、履修するために予め単位取得をしていなければならない授業が指定されています。私は事前に東大で、「財務会計」など経済学部の授業を履修してPrerequisiteに充てようとしたのですが最終的に全て申請が通らず、1年生用の授業から履修することになりました。所属学部と異なる授業を履修したい場合は注意が必要です。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

Visa class: Student (Temporary)・Visa subclass: Non-Award Sector (subclass 575)のビザを取得しました。手続きは全てオンラインで行いました。オーストラリア移民局(Department of Immigration and Border Protection)の案内に従って進めればつまづく点は特にないと思います。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

必要な予防接種はなかったかと思います。オーストラリアの薬は日本人にとっては強い可能性があるため、留学中に使う可能性のある薬は全て日本から持参しました。出発前の健康管理はもちろんするべきですが、特に歯に関しては向こうで治療すると基本的に保険がおりず高額になるので歯科検診を受け、ケアをしてから渡航しましょう。虫歯だけでなく、年齢的に親知らずが生えてくる方もいるかと思いますが、留学中に痛む可能性がないかどうか、歯科医師に相談しておくことをオススメします。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学の案内に従い、東京海上日動の海外保険に加入しました。また、オーストラリアの大学に留学する際はOverseas Student Health Cover(OSHC)と呼ばれる留学生向けの保険に加入する必要があるため、メルボルン大学からの案内に従い、それにも加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

オーストラリアの大学は7月から2学期が始まるため、法学部の夏学期定期試験と日程が重なります。そのため、夏学期に履修していた授業は繰り上げ試験という形で7月の頭に特別に受けさせて頂きました。繰り上げ試験に関しては特別措置であり、教授会の承認等が事前に必要となってくるので、法学部の方は夏学期の初めの段階で法学部教務課に相談することをオススメします。法学部の手続き自体は、交換留学派遣が決定したのち、一度面接を行うのみなので特に問題はありませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

私の場合、海外で生活したことがなく、リスニングとスピーキングに全く自信が無かったため、留学前の1カ月にBerlitzに通い英会話を勉強しましたが、オススメはしません。何故なら、現地の人々の会話が、キレイな発音や正しく堅い文法でなされるわけもなく、Berlitzなどの語学学校の先生の英語が聞き取れたからと言って現地の会話は聞き取れるようにはなっていないからです。それよりは、学校生活や若者の生活を描いた海外ドラマなどを見て、発音の崩れ方・口語的な言い回しに耳を慣らした方が余程有用だと思います。私は渡航後、図書館で海外ドラマ「glee」を借り、聞き取りの練習をしていました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

メルボルンはアジア系が多い都市ですので、アジアスーパーなどに行けば日本食の材料等は現地で揃えることが出来るので、そこまで大量に持って行く必要はないと思います。ただ、お菓子類やインスタント食品などは現地で買うと高いので、荷物に余裕があれば持って行ってもよいかもしれません。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Academic English 2	12.5	●	Corporate Finance	12.5	●
Finance 1	12.5	●	Derivative Securities	12.5	●
Quantitative Methods 1	12.5	●	Econometrics	12.5	●
Business Finance	12.5	●			
Quantitative Methods 2	12.5	●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

留学中は主にファイナンスと統計を勉強しました。1授業あたり週に2時間のLectureと1時間のTutorialの計3時間で、Lectureは大教室で教授が生徒に対して一方向的な講義を行う形態、Tutorialは15人前後の少人数でTutorと共に毎週課される課題について議論する形態です。予習に関してはTutorialの課題を事前にやる必要があり、復習に関しては強制性のあるものは特にありませんでしたが、毎授業の後に自主的に復習を行っていました。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

2016年2学期に3授業、夏休みに行われたSummer Termで2授業、2017年1学期に3授業の計8授業履修しました。前述の通り、prerequisiteの関係から1年生用の授業からしか履修出来なかったため、初めに1年生用、Summer Termに2年生用、最終学期に3年生用(オーストラリアにおける最終学年用)を履修し、ファイナンス・統計に関する1通りのストリームは網羅しました。毎週課される課題をこなすだけなら、各授業あたり週に4時間ほど予復習にあてれば置いていかれることはありませんが、授業内容をしっかり理解し、期末試験前に慌てないようにするためには、指定されている教科書等を随時参照し、各授業あたり更に週4時間ほどは学習すると良いと思います。

④学習・研究面でのアドバイス

メルボルン大学では東京大学の授業よりも実用的な面によりフォーカスして授業が進みます。例えば、統計では難解な数学的背景よりこの手法を使ってどのようなことが出来るのか、わかるのか、という面をより重視して学習していきます。そのため、東大で使っていた教科書よりもメルボルン大学で使用する教科書の方が英語で書かれているにも関わらず分かりやすい、という場合が多いです。是非、教科書は一読し、理解を深めることをおすすめします。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

ファイナンスと統計に関しては数字を扱うため、他の社会・人文科学系の科目に比べたら英語でビハインドがあったとしても比較的ついていきやすく、点数も取りやすいと思います。英語でのハンディキャップが少ない分、より授業内容を深く理解することを意識すると良いと思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

メルボルン大学から送られてきた宿舎一覧の中で紹介されていた、Student Village Melbourneという、メルボルン大学のInternational Studentが主に住んでいるマンションで生活していました。部屋は4人部屋で、鍵のかかる各々のベッドルームがあり、キッチンやリビング、トイレやシャワーなどは共用でした。2年前ほどに出来た新しいマンションだったため内装はとても綺麗で住みやすかったです。家賃は光熱費・水道代・月50GBのネット回線込で約A\$8,000/学期でした。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気温は東京に似ていて、東京よりも夏の暑さや冬の寒さがもう少し穏やかな印象です。また、夏は乾燥しており、1年を通じて長雨はあまり降らないなど、暮らしやすい気候だと思います。ただ、紫外線の量は日本より遥かに多いため、夏場は日焼け止めが必須です。メルボルン大学はCBDから徒歩10分ほどの場所に位置しているため、買い物等は便利だと思います。市内の交通機関は主にトラムで、郊外に足を延ばす場合は電車が多いです。アジアンスーパーが多いため自炊が出来る方は自宅で日本食も作れます。自炊が出来ない人も学食やCBDにもご飯屋は沢山あるので苦労することはないでしょう。家賃などは親のクレジットカードから毎月引き落とし、その他の生活費は日本の口座に日本円で親に入金してもらい、それを三菱東京UFJ Visaデビットカードを利用してオーストラリアドルで引き出し、現金、または現地の銀行口座の預金として管理していました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

CBDで大きな自動車事故が起こったり、飛行機が墜落したりなど留学中に大きな事件が何度か起きましたが、これらは例外で基本的に治安はとても良いです。留学中の1年間で盗難にあったことや事件に巻き込まれたことはなく、非常に安全です。良くない例とは思いますが、大学の図書館で財布を机の上に置いたままトイレに行ったことや、CBDの中華料理屋で高価なイヤホンを置きっぱなしのまま退店してしまったこともありましたが、いずれも誰かに盗られることなく無事回収出来ました。医療関係では、11月ごろに親知らずが痛みはじめ、日本人が経営する歯科医院に掛かりました。歯は保険が効かないため高額な出費となりますので、医者にかかることが無いようケアしましょう。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

家賃: A\$1,300
食費: A\$700
交通費その他: A\$200
合計: A\$2,200

・留学に要した費用総額とその内訳

生活費: $A\$2,200 \times 12 = A\$26,400$
教科書代: A\$800
旅費・娯楽費: A\$6,000
航空賃: A\$2,000
合計: A\$35,200

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学からの案内より、全学交換留学派遣用奨学金として月70,000円、12カ月間受給。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

学校内のダンスサークルに加入し、クラブなどでパフォーマンスを行った。また学外のダンススタジオにも通い、学生以外の社会人の方々と親睦を深めました。長期休暇では主にオーストラリア国内を巡り、ウルル・ケアンズ・シドニー・タスマニア・西オーストラリアなど、主要な観光地は粗方巡りました

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生への特別なサポートは特にありませんでした。もしかすると、私が見逃していただけかもしれません。しかし、日本語クラブがあったので、英語ばかりの生活に疲れてきたら日本語クラブの人々と会話してリフレッシュするというのも1つの手だと思います。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は大きな図書館が複数あり、充実しています。朝開く時間は少し遅いですが夜遅くまでやっている図書館も多いので、便利です。学食も最低限の店数はあり、日本食のお店もあったため、そこまで不満はありませんでした。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

サークル活動もそこまでなく、またバイトもなかったため、東京での生活に比べたら、圧倒的にやらなければいけないことが少なく、自分を顧みる時間が多かったのですが、その過程で、今まで歩んできた人生が如何に周りによって形作られてきたか、または自分で考え道を定めることなく周りに流されて生きてきたのか、を心から実感し、自分の将来についてゼロベースで考えるようになりました。未だ明確な進路は定まっていますが、留学で初めて得られたこの感覚を大事にして、自分の将来を自分で決めていきたいと思っております。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

	1. 研究職
	2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
	3. 公的機関(機関名:)
	4. 非営利団体(団体名又は分野:)
	5. 民間企業(企業名又は業界:)
	6. 起業(分野:)
	7. その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

1年間の留学を経て私は最も実感したことは、「自分から動かなければ何も生み出せない」という「自分発信」の重要性です。初めての1人暮らし、期間限定の留学生という初めての「部外者・ゲスト」という立場、母国語が英語ではないことで満足にコミュニケーションすら図れないという状況。これら全ての要素によって、人間関係や学習面などあらゆる面において、自分からアクションを起こさなければ望む結果は得られないという当たり前の事実を如実に突きつけられました。逆に言うと、留学に行く前の自分が如何に、自分から何を言わなくても他人に世話してもらえる、巻き込んでもらえる、という幻想に浸っていたか、ということに気づかされました。その結果、自分のやりたいことが全く分からなくなり、就活でも大いに悩んでいる最中なのですが、今までの自分を作り上げてくれた両親や友達に感謝しつつ、これからは自分の手で自分の幸せを切り開いていかなければならない、という意識をようやく持てたことは非常に有意義であったと思います。

②留学後の予定

学年は1つ落とし、3年の夏として東大に復帰する予定です。まずは、所属しているダンスサークルの現役最後の公演が12月に迫っているので、それに対して全力投球することが目標です。それと並行して、サマーインターンなどの就職活動を通じて、自らのやりたいことを深く考え、自分の進むべきキャリアプランを定めていきたいと思っています。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

私の場合は、自分が思い描いていた留學生活とはずいぶん違った留學生活となりました。期待していたより余程地味で、期待していたほどは楽しくない、まさに理想と現実のギャップを感じ人生で最も挫折を感じた1年だったと思います。しかし、そんな中でも、留学行く前には予想だにできなかったようなものの考え方が得ることが出来ました。そういう意味では、留学は一種の博打のようなものだと感じます。何かは得られるでしょうが、何を得られるのかは未知数です。だから、もし今の生活に閉塞感を感じていて、何かを変えたい!と思っている方にとっては、この「博打」を打つのは十分価値あることだと思います。逆に、今やっているサークルや勉強が充実していて、それを続けていても確実に得られるものがある、と感じている人にとっては、その充実感や得られるものを捨ててまで、この「博打」を選ぶことが本当に価値あることなのか、よくよく考えてみてください。「周りがやっているから~」という漠然とした理由で留学を選ぶのを正当化できるほど、留学は最優先事項ではありませんし、日本での生活に価値が無いとは思えません。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

特になし

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年06月20日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	メルボルン大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

メルボルン大学は、ANUと並んでオーストラリアを代表する大学です。留学生の数がとても多く、国際色豊かな大学です。

留学した動機

英語力と国際的な視座の獲得のため。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	学部3	年生の	夏	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年	7月~	2017年	6月	
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2017年	学部4	年生の	S2	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2017年	学部4	年生の	6月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		40	単位	
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位		10	単位	
	留学後の取得(予定)単位		26	単位	
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2019年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

学部3年での留学が、リスクを最小化するからです。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

基本的には、送られてくるものの締め切りを守り、しっかりと提出すれば問題ないです。あまり細かいことにこだわる必要はありません(同じ書類の名前が東大とメル大で違う、等)。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

学生ビザを申請しました。インターネットで申請するとその日に認可がおりたと思います。かつて必要とされていた健康診断は、私の時には廃止されていました。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

健康診断・予防接種は受けていません。念のために、風邪薬を処方してもらいました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大によって加入が義務づけられている東京海上の保険に入りました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学直前の夏学期はレポート科目をメインに取りました。特に特別な措置は受けていませんし、必要ありませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

TOEIC950点、英検1級等。出発前にはオーストラリアの映画の書き取りなどをしてボキャブラリーとリスニングを強化しました。準備はした方がいいですが、いずれにせよ現地で壁にぶつかり対処を迫られると思います。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

大抵のモノは現地で買えますが、値段が高いあるいは質が悪いことが多いです(日本基準で考えた場合)。こだわりがあるものは持って行った方がいいかもしれません。出発前にやっておくべきことは、特になくと思います。日本について語れる必要性については、個人的には「自分のフィールド」をいくつかもっていただければいいと思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Anthropology: studying human diversity			Famine: geography of scarcity		●
Developemnt in the 21st century		●	Post-conflict development and difference		●
Modern Southeast Asia		●	Total War: World War two		●

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

毎週の読書課題や、授業後の復習(Lecture recordingsで講義を聞き直せます)を考えると、ただ授業にいればよい日本流の講義(全てではない)とは違います。どの授業も教授が個性的で印象に残っています(オーストラリア人だけでなく、パキスタン、USA、UK、インド、モルドバなど)。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1学期あたり3コマないし4コマの単位充足がビザの要件となっています。各々の授業はレクチャーとチュートリアルで構成されており、毎週リーディングの課題に追われるという西洋スタイルです。自習時間は多いですが、コマ数が少ないのでとても大変というわけではありません。図書館で読書課題をやるだけの留学生活はもったいないですし、短い時間で必要な情報を読み取りアウトプットするという力が求められていると思います。

④学習・研究面でのアドバイス

教養学部は「読んで書くのが仕事」と言われ、例えば歴史であれば一回のレポートで論文10本を読んで2000ワードを書くこととなります。③の繰り返しになりますが、実社会と同じである程度効率的にこなすことが求められていると思います。日本人は丁寧に読む傾向にあるので、大変なときは少し適当に読んでみるもいいかもしれません(サボりを称賛しているわけではありません)。毎回きちんとこなせば間違いなく英語力はつきます。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

チュートリアルでは発言時間をどうしてもネイティブに取られてしまいます。日本では英語上級者でも、留学すれば明らかに日本人はチュートリアルで存在感を失っています。私は生き残りのために打数よりも打率と考え、発言の数は少なくともポイントを押さえた主張をすることを意識していました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

海外生活に慣れるまでは余計な問題を抱えたくなかったため、前半は学生用アパートに一人暮らしをしました。しかし家賃が12万と法外だったので、後半は月8万のシェアハウスに引っ越しました。前者はメル大の留学生向けの情報を参考に、後者はメル大の掲示板を参考にを見つけました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

突然雨が降るなど、メルボルンの気候は変わりやすいことで知られ、人によってはストレスを感じると思います。食事は高いので自炊中心となると思います。お金は、基本的にクレジットカードですが、意外と現金を必要とする場面もあります。また、銀行口座はキャンパス内のコモンウェルスで簡単に開設できます。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はかなり良いですが、最近は凶悪な事件が起こっています。また、薬物服用者もたまに見かけるので、日本とは違うという意識は当然必要です。医療機関は受診していないので事情は分かりませんが、評判は悪いです(参考までに)。健康管理で気を付けたのは、病気にならないように気を付けました。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

5万円(食費3万、諸経費2万)

・留学に要した費用総額とその内訳

家賃112万円(=12万×6か月+8万×5か月)+生活費5万×11か月+旅行費(20万)+諸経費=約200万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東大を通じてJASSO奨学金を受給しました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

日本語クラブ・Language exchange club等にも入っていましたが、メインは硬式野球部の活動でした。平日の練習と土曜のリーグ戦で週3日活動していました。長期休暇は、カンボジアの小学校でボランティアとして英語を教えました(個人で応募しました)。他には、友達と観光するなどして余暇を過ごしました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

予約をすれば図書館の人がエッセーの添削をしてくれるらしいですが、利用したことはありません。あとはLMSで講義の録音を聴けるので、リスニングが心許なくても生きていけます。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

教養学部の図書館は現在工事中なので席が少ないです。食堂ではなくフードコートがあります。Wi-Fiはキャンパス内で利用できます。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

日本の社会に対して何か貢献したいという思いが強くなりました。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

キャリアフォーラムに行ったり(シドニー等にもあります)、自己分析を進めたりするなど、できることはやっておいて損は無いと思います。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学の最大の成果は、外国人を相手にうまくやっていくヒューマンスキルの向上です。特に野球部での活動では、多国籍な集団の中でいかに自分の存在感を出していくかを考えることになりました。もちろん、英語力や専門に関する知識など他にも身に付いたものがありますが、前述の能力が最も伸びたと感じています。

②留学後の予定

単位を取り、就活をし、卒論を提出します。留学中に大学院という選択肢を消去できたので、卒業後は民間企業で仕事に励みたいと思います。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

自分だけでなく周りを見渡しても、純ジャパの人が留学をすると大きく成長することができると思います。よく今時英語や国際的な視座は日本でも身に付くという人がいますが、本当にそうなのかどうかよく考える必要があるのではないかと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。